

富士山測候所の保存と活用を考える

よみがえれ富士山測候所

— 極地高所研究拠点としての活用促進大会 —

5月17日 火 [13:30~16:00]

プログラム

1. あいさつ (研究会代表、静岡県知事、山梨県知事)
2. 講演 **テーマ** 「命をかけたプロジェクト“富士山測候所”」
講師 伊藤 庄助氏 (元大成建設株式会社役員)
3. 経過説明
4. パネルディスカッション

- パネリスト**
- 浅野 勝己氏 (日本山岳協会医科学副委員長、筑波大学名誉教授)
 - 岩坂 泰信氏 (金沢大学自然計測応用研究センター教授)
 - 増沢 武弘氏 (静岡大学理学部教授)
 - 山本 智氏 (東京大学大学院理学系研究科教授)

会場

しずぎんホールユーフォニア

静岡市葵区追手町1番13号
アゴラ静岡ビル (静岡銀行呉服町支店) 8F

主催 富士山高所科学研究会、静岡県、山梨県

お申し込み・お問い合わせ (財) 静岡総合研究機構 TEL:054-249-1818 FAX:054-249-1820 URL <http://www.sri.or.jp/>
富士山高所科学研究会 URL <http://fuji3776.net/>



よみがえれ富士山測候所

—極地高所研究拠点としての活用促進大会—

富士山は私たち日本人にとって特別な山です。四季折々に変化するその優美な姿は人々を魅了し続けています。また、富士山は美しいだけでなく、自然観測の場としてもたいへん大きな意味をもっています。1932年から山頂での通年観測がはじまり、1964年には富士山レーダーが設置され、台風をはじめとした気象観測の砦として、日本の技術者や科学者が誇るべきシンボルとなりました。ところが、気象衛星の発達などにより山頂での気象観測の必要性は低下したとの判断から1999年にレーダー観測が停止され、2001年にはレーダードームも撤去されました。そして2004年には富士山測候所は無人化されました。しかし、気象観測の必要性が低下したとしても、富士山頂に観測施設を設けておくこと自体の価値がなくなったわけではありません。環境科学、天文学、宇宙科学、高所医学、スポーツトレーニング学、地震火山学、先端材料技術、極限環境機器開発など幅広い学問領域でその活用が期待され、さらには教育、野外活動の拠点としての利用も考えられています。ハワイやヨーロッパアルプスなどの高所山岳には、このような自然観測や観察の拠点、自然科学の研究拠点となっている地点があり、そこではさまざまな分野で素晴らしい成果があがっています。このような利用価値の高い貴重な施設を無人化して放置することは、本当にもったいないと思います。かけがえのない富士山測候所を有効に利用すべきであるとの我々のアピールにご賛同いただければ幸いです。

パネリストプロフィール

浅野 勝己氏

日本山岳協会医科学副委員長、筑波大学名誉教授
専門：運動生理学、高所生理学

中高年の登山ブームの中、海外の高所に年間5万人が出かけている。しかし短期間なため高山病による遭難死が2.1%にも及んでいる。この高山病を予防する第一の方策は、富士山頂での高所順応を行うことである。

欧米では富士山と同高度の山頂に、高所医学センターが古くから数多く設置されており、高山病の基礎研究が行われている。

日本のシンボルである富士山を「健康増進」と「高所医学研究」を発展させる基地に是非したい。

岩坂 泰信氏

金沢大学自然計測応用研究センター教授
専門：大気化学

東京大学大学院理学研究科で宇宙プラズマの発光現象などを勉強、その後、成層圏の水蒸気測定、尾鷲の集中豪雨の観測、沖縄を中心に展開されたAMTEXなど大気中の水が関係するフィールド研究に参加。24次南極観測隊に参加し南極成層圏のエアロゾルなどを観測。帰国後は、インドネシア、中国、韓国、ノルウェー、アメリカ（アラスカ）などで大気エアロゾルの観測を手広くやり、現在は、黄砂の研究を発展させようと汗をかいている。長白山に、大気観測モニタリング拠点を作って中国、韓国、モンゴルなどの国の研究者と東アジアの大気環境を調べるのを夢としている。

増沢 武弘氏

静岡大学理学部教授
専門：植物生態学、極限環境科学

極限環境に生育する植物の生き方について研究。県内では富士山・南アルプスの高山帯で、その他には北アルプス、ハケ岳、北海道などで高山植物を研究。国外では北極域を中心に、ヒマラヤ・アンデス・南極もフィールドに。静岡県から委託を受け、5年間にわたり富士山頂での藓苔類の分布と永久凍土についての調査を手がけたほか、同じく静岡県が進める「富士山100年プロジェクト3776構想」や富士山の植生回復に関する事業などにも携わる。

山本 智氏

東京大学大学院理学系研究科教授
専門：宇宙物理学、星間化学

1998年に富士山頂に口径1.2メートルのサブミリ波望遠鏡を建設して運用している。星間空間に存在する中性炭素原子のサブミリ波スペクトル線を観測して恒星が生まれる母体となる「星間分子雲」の形成と進化を探っている。冬季の富士山は気温が低く乾燥するので、観測の邪魔になる水蒸気が大変少ない。そのため、富士山頂は宇宙からのサブミリ波（波長1mm以下の電波）の観測において、世界でも最も優れた場所の一つである。その意味で、富士山頂は天文学の分野でも重要な意味を持っている。

よみがえれ富士山測候所

—極地高所研究拠点としての活用促進大会—

参加申込書

参加申込方法

ハガキ又は右記の申込書に必要事項を御記入の上、5月13日（金）までに、FAX、Eメール又は郵便で「(財)静岡総合研究機構」までお送りください。なお、空席があれば当日受付可。

〒420-0839 静岡市葵区鷹匠3-6-1
もくせい会館2F

URL • <http://www.sri.or.jp/>

• <http://fuji3776.net/>

E-mail • sri@mti.biglobe.ne.jp

FAX: 054-249-1820

TEL: 054-249-1818

フリガナ	
御氏名	
所属	(団体・学校名等)
住所	〒
電話	

* 駐車場がありませんので、公共交通機関を御利用のうえ、御来場ください。

会場地図

しずぎんホールユーフォニア

静岡市葵区追手町1番13号
アゴラ静岡ビル（静岡銀行呉服町支店）8F

